

第 72 回クラシックを楽しむ会

2020 年 2 月 16 日 (日) 18:00~ (2 時間 30 分、休憩除く)

タイトル：**喜歌劇「天国と地獄」(オッフェンバック)**

フランス語タイトルは「**地獄のオルフェ**」

会場等：**ザルツブルク音楽祭 2019**
オッフェンバック生誕 200 年記念公演
モーツァルト劇場 (ザルツブルク)
(2019 年 8 月 12、14、17 日)

楽団等：**ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団**
ベルリン・ヴォーカルコンサート (合唱)

指揮：**エンリケ・マツォーラ**

演出：**バリー・コスキー**

出演：**アンネ・ソフィー・フォン・オッター** (世論)
マックス・ホップ (ジョン・ステュクス)
キャスリーン・リーウェック (ウリディス)
ホエル・プリエト (オルフェ)
マルセル・ビークマン (アリステ/プリュトン)
マルティン・ヴィンクラー (ジュピテル)
その他



第 2 幕 逃亡を図るウリディス(右)はプリュトン(左)に見つかる

簡単なあらすじ

オルフェと妻ウリディスは夫婦仲が悪くそれぞれ不倫している。オルフェが妻の不倫相手アリステ (実はプリュトン) を殺そうとして毒蛇を放ったら誤って妻が死ぬ。思いがけず妻が死んで喜ぶオルフェに、体裁を重んじる世論が登場し、冥界に妻を連れ戻しにいくべきだと説く。オルフェは冥界から妻を連れ戻す途中、ジュピテルの策略で後ろを振り向き永遠に妻を失う。オルフェはもともと妻と別れたいと思っていたので (^)o(^)。

※ギリシャ神話「オルフェオとエウリディーチェ」のパロディー。オルフェオは最愛の妻エウリディーチェを冥界から連れ戻す途中、我慢できなくなって後ろを振り向く。オルフェオは妻を失って悲しみに暮れる。

見どころ・聴きどころ

序曲。フレンチ・カンカンのメロディも入っていて、運動会、CM など単独でもよく演奏される。第 2 幕、終幕で冥界の大宴会。フレンチ・カンカンのギャロップは底抜けに楽しい。

第 73 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：**歌劇「トスカ」(プッチーニ)**

3 月 22 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

ミラノ・スカラ座 2019/20 開幕公演。アンナ・ネトレプコのトスカ、フランチェスコ・メーリのカヴァラドッシ、そしてルカ・サルシのスカルピア男爵。管弦楽はリッカルド・シャイー指揮のミラノ・カスカラ座管弦楽団。見逃せない豪華キャスト！
4 月以降、パイロイト音楽祭 2019 歌劇「タンホイザー」、ザルツブルク音楽祭 2018 年 8 月の歌劇「スペードの女王」、ザルツブルク音楽祭 2014 年 8 月の歌劇「ドン・ジョヴァンニ」などを予定。

あらすじ

【時と場所】

神話時代のギリシャ。地上のテーバイ近郊、天国のオリンポスと地獄

【登場人物】

オルフェ (T)	ウリディスの夫。羊飼いの娘クロエと浮気中。 (ギリシャ神話のオルフェウス)
ウリディス (S)	オルフェの妻。羊飼いやリスステ (実は冥界の王プリュトン) と浮気中。 (ギリシャ神話のエウリディーチェ)
ジュピテル (Br)	天国 (天上のオリンポス) の神々の王。女癖が悪く妻や神々から非難されている。 (ギリシャ神話のジュピター)。 ナポレオン 3 世を暗示。
プリュトン/アリスステ (T)	地獄 (冥界、黄泉の国) の王。地上で羊飼いやリスステに化けている。 (ギリシャ神話のプルートン)
ジョン・ステュクス (T)	プリュトンの召使。かつてボイオーティア (中心都市はテーバイ) 王。七月王政以来スノッブの間で人気だった英国人の召使いを揶揄。
世論 (Ms)	道徳を重視する世論の代表。ジュピテルが最も恐れる存在。

【第 1 幕】 テーバイ近郊の野原、天上のオリンポス

バイオリン教師オルフェと妻のウリディスは倦怠期で、ともに浮気している。オルフェはウリディスの愛人の羊飼いやリスステ (実は冥界の王プリュトン) をやっつけようと罟を仕掛けるが、毒蛇に咬まれて死んだのは妻ウリディス。予想外の結果に大喜びのオルフェ。しかし、それを見ていた「世論」はオルフェに、妻を冥界から取り戻すべきだと主張する。

オルフェはしぶしぶ「世論」と神々の住む天上のオリンポスにおもむき、神々の王ジュピテルに、妻を返してほしいと頼む。実は、ジュピテルをはじめ天上の神々はスキャンダルまみれ。ジュピテルはスキャンダルの汚名を晴らすため、神々を引き連れて冥界へ行くことにする。

【第 2 幕】 冥界

死んだウリディスは喜んでプリュトンについて冥界に降りたものの、ウリディスをジュピテルに奪われないよう一室に閉じ込められた。大の女好きのジュピテルはハエに化けてウリディスの部屋に鍵穴から侵入してウリディスに一目ぼれ。プリュトンにうんざりしていたウリディスもその気になる。ジュピテルとウリディスは、冥界の大宴会の騒ぎにまぎれて逃げようとする。ウリディスは酒の神バッカスの巫女に化けて踊っていたが、プリュトンに逃亡のたくらみを見破られてしまう。

そこにオルフェが「世論」とともに登場して、ジュピテルに約束通りウリディスを返してほしいと頼む。ジュピテルはしかたなく、地上に戻るまでは後ろを振り向かない条件で、ウリディスをオルフェに返す。オルフェは一向に後ろを振り向かないので、イライラしたジュピテルは雷を落としてオルフェを振り向かせ、ウリディスは消える。

オルフェは羊飼いの娘クロエのもとに戻れると大喜びで地上に戻っていく。プリュトンはウリディスを黄泉の国に残すと主張するが、ジュピテルはウリディスをバッカスの巫女にすると宣言して乱痴気騒ぎの中幕となる。

出演



A.S.F.オッター



M.ホップ



K.リーウェック



H.プリエト



M.ピークマン



M.ヴィンクラー

アンネ・ソフィー・フォン・オッター（1955 - ）は、スウェーデンのメゾソプラノ歌手。レパートリーは非常に広く、オペラでは特にズボン役として知られ、楽曲に知的な解釈を示すことでも知られる。

マックス・ホップ（1972 - ）は、ドイツの人気俳優。テレビ、映画で数多く出演している。

キャスリーン・リーウェックはアメリカのコロラドゥーラ・ソプラノ歌手。マリリン・ホーンに師事、世界的に活躍中。メトロポリタン歌劇場では2013年から毎シーズン夜の女王を歌っている。

ホエル・プリエト（1981 - ）は、スペインのテノール歌手。プエルトリコで5歳からヴァイオリンを学び、マンハッタンで音楽教育を受けた。パリ・オペラ座、ドイツ・オペラ・ベルリンのメンバー。

マルセル・ピークマン（1969 - ）は、オランダのテノール歌手。教会の聖歌隊でボーイ・ソプラノを歌っていた。オランダ、ドイツを中心に、バロック音楽をレパートリーとしている。オランダ少年合唱団とバッハのカンタータ全曲録音を残している。

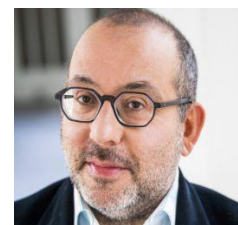
マルティン・ヴィンクラー（1968 - ）は、オーストリアのバス・バリトン歌手。当初はオペラ・ブッフアのバツ・ブッフオ（道化的バス）役を歌っていた。2011年にヴァーグナーデビューしてから、バイロイト・フェスティバル、メトロポリタン歌劇場、バイエルン国立歌劇場などで歌っている。

エンリケ・マツォーラ（1968 - ）は、スペイン生まれのイタリア人指揮者。代々音楽家の家に生まれ、幼少のころからヴァイオリンの勉強を始めた。ミラノでダニエレ・ガッティにオーケストラ指揮法、アツォオ・コルギのもとで作曲を学んだ。スカラ座でクラウディオ・アッパードらのもとで仕事をした。アメリカ3大オペラハウスの一つ、シカゴ・リリック・オペラの次期音楽監督就任が決まった。

バリー・コスキー（1967 - ）は、オーストラリアの劇場・歌劇場演出家。ヨーロッパで最も人気が高い演出家の一人である。ベルリン・コーミッシェ・オーパーでの成功からバイロイトの「マイスタージンガー」の成功を経て、今や飛ぶ鳥を落とす勢いに乗る演出家といわれている。



E.マツォーラ



B.コスキー